ハビタット福岡市民の会　ニュースレター　発行 ２０１０年８月１９日

Citizens Net for UN Habitat Fukuoka
ハビタット福岡市民の会

３０号の主な内容

■特別シンポジウム「ネパールのゴミ問題」
■ハビタット協力委員会・懇談会
■ネルムさんを囲んで勉強会
■ハビタット支援コンサート　■職員紹介
■ニュースレター30号発行に際し

第30号
http://cnhf.npgo.jp

■特別シンポジウム「ネパールのゴミ問題」

2010年７月３日(土)、国連ハビタット親善大使のマリ・クリスティーヌさんをコーディネータに招いて、「ネパールのゴミ問題」をテーマにシンポジウムを開催した。

ネパールは、世界の最高峰エヴェレスト（８８５０m）を擁するヒマラヤ山脈のふもとに位置する人口３０００万人の山岳国家である。首都カトマンズは、周囲を山に囲まれた盆地であり、近年車の排気ガスによる大気汚染や、ごみ処理の問題が深刻化している。

昨年から今年にかけて、福岡のNPOや国連ハビタットによる現地視察により、その解決策の糸口を見出す活動がなされている。この機会に、この問題を市民の皆さんとともに考えようと日本ハビタット協会と共催でシンポジウムを開催した。

会場となった福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」のセミナー室には、関心を持つほぼ満員の37名の皆さんが集まり、議論に耳を傾けた。

写真左より、コーディネータのマリ・クリスティーヌ氏（国連ハビタット親善大使）、パネリストの大谷妙人氏（グラウンドワーク福岡事務局長）、たいら由以子氏（環境生活研究所事務局長）、星野幸代氏（国連ハビタット福岡本部本部長補佐官）、サントシュ・ポーデル氏（九州大学 G30プロジェクトオフィス）に参加をいただいた。

開催にあたり、牟田慎一郎氏（ハビタット福岡市民の会代表・日本ハビタット協会理事・福岡支部長）が開催挨拶とシンポジウムの趣旨説明をしたあと、各パネリストよりそれぞれの活動紹介が行われ、続いてパネルディスカッションに移った。

マリ・クリスティーヌ：１９９５年「アジアの女性と子どもネットワーク」を始める。子どもの人身売買を防ぐため、タイの山奥で学校を建設する。雨水タンク、汚水処理マスも作る。町づくりもした。国連ハビタット親善大使としては日本、世界に出かけた時に国連ハビタットの話をしている。帰る家がある、生活の拠点が有るというのが大事である。そして、ゴミ問題、上下水道問題も解決していく。

サントシュ・ポーデル：ネパールは北海道の２倍の面積で、人口は2,３００万人である。６０以上の異なる民族が住んでいる。都市への人口集中が激しい。しかし、都市には都市計画がない。カトマンズ市は人口２５０万人で、急速な都市化と深刻な環境問題が起きている。住民が地方に戻り自立できるようにすることが必要である。識字率は６０％で、環境意識は低い。カトマンズ市内のバグマティ川ではゴミが多く捨てられている。

星野幸代：国連ハビタットは全ての人に適切な住まいを提供することを目的としている。国連ハビタット福岡本部はアジア、太平洋諸国を管轄しており、２８カ国、２００以上の都市で活動している。ネパールでは、都市人口の増加、政治の不安定、非農業セクターの増加、人の消費動向の変化が起きている。５８の自治体で、ゴミを回収できていない自治体が１９ある。自治体の中に廃棄物を担当する部署がない。廃棄物処理で、計画の不足、予算の不足、政府・民間・市民の理解の不足がある。国連ハビタットの活動としては、シェルターの支援、スラム改善、政府に政策提言、自治体の能力開発を行った。又、ダンボールコンポストの紹介も行った。

大谷妙人：バグマティ川の清掃活動に参加した。清掃後のミーティングで河川清掃を週に１回継続して行うよう、又、学校や主婦に教育をするよう話をした。川の横にあった国有地を公園として整備する構想を持った。

たいら由以子：46年前生ゴミの堆肥化を始める。９年前ダンボールコンポスト普及をスタートさせる。ネパールで堆肥化研修をする。リーダー養成講座を行う。

星野：ノウハウ、知識を人材に残すしかない。優良事業を伝えていって貰う。

サントシュ：人材育成は賛成である。しかし、ネパールはルールができていない。まだ憲法ができていない。留学生は海外に移住してしまう。

たいら：リーダーを育てることで、知識を伝えていく時にモチベーションを維持できないことが問題である。１００％→８０％→６０％→４０％と下がっていく。器がダンボールであるダンボールコンポストは、コストが安い、呼吸できる、匂いが出ないという長所がある。

大谷：水をどう手に入れるかの問題がある。公園作りのワークショップをした。

たいら：コンポストは、水分、栄養、酸素でスピードが決まる。自然循環を目指す。

サントシュ：ネパールでは政治不安定がある。今の政治家は６０歳以上である。

星野：ネパールでは、都市でコンポスト化すればよい。家庭ゴミを堆肥化し家庭菜園に使う。国際支援はできる。しかし、地方選挙が久しく行われていないのでリーダーシップが欠如している。

サントシュ：ネパールは観光国であり、援助を受ける国である。故に、援助を受けるのは当たり前の観念がある。

星野：人材育成をすべきだ。ノウハウを伝える。それを伝

えていく。
大谷：公園を作るにはどうすればいいか。自分に何ができるかを考えること。私にはできないと考えないこと。
クリスティーヌ：最後に、パネラーの人に、もう一言ずつまとめの提言などをお話下さい。
大谷：相互扶助をするべきだ。何故なら一斉清掃がない。
たいら：コンポストの技術をしっかり学ぶことが大事だ。
サントシュ：ネパールは観光立国を図るべきだ。
星野：国際協力とは、その第一歩はその国を良く知ること、関心を持ち続けること。そして、自分に何かできないかを考えることである。
クリスティーヌ：ハワイでは、海亀がビニールを食べて餓死してしまう。自治組織を、地域コミュニティを育て、自分の身の回りの社会をよくすることが必要である。

○アンケートの結果（回答数２２）

性　別	男性	女性		
	８	１４		
職　業	学生	社会人	その他	
	４	１７	１	
情報入手	チラシ	HP	知人の紹介	e-mail
	２	０	16	４
内　容	理解できた	できなかった		
	２２	０		
時　間	長い	普通	短い	
	１	１８	３	
進　行	良かった	普通	良くなかった	
	１４	８	０	

＜コメント＞
・とても充実した時間でした。国連ハビタットの活動について、またパネリストの皆さんの具体的な取り組みについて知ることができ、とても感銘したし、自分にとって身近なことになりました。星野さんの「国際協力の第一歩は、相手の国を知ること」という言葉が印象に残りました。私もなんらかの形でかかわりたいと思いました。
・分かりやすい内容で、勉強になりました。ゴミや水の問題、国連や今日のパネリストの方々の協力でネパール側の意識も上がってきている事を嬉しく思いました。
・ダンボールコンポストを友人が作っていたので興味深かった。大切な問題です。これからも意義深いテーマを！ありがとうございました。
・ハビタットのしくみ、組織、同様に他の国連機関との連携について学ぶワークショップを開いて中高生～大学生が学ぶ機会があると良いと思います。
・司会進行がすばらしく、４人のパネラーの方の取り組みと関連性を引き出されていて、とても内容の濃いシンポジウムでした。先進国として日本の役割、福岡の役割とは、それぞれの取り組みの共通の VISION とは、まで話を膨らませたものを機会があれば聞いてみたいです。
・全体的に良かったと思います。ですが少し休憩などをはさんでいただければと思いました。
・ありがとうございました。今まで知らなかったネパールのこと、ゴミ問題のことを知ることができ面白かったです。
・パネリストの方々のそれぞれの角度、視点から多様な意見、見解が聞けてとても良かった。個人的にはダンボールコンポストの話がとても興味深く、自分も挑戦できるようになったら広げていこうと思う。
・ネパールに関心を持てた。ボランティア団体の活動が良かった。
・このほかにもいろんな国のかかえる問題について教えてください。
・頂いた「日本ハビタット」と「ハビタット福岡市民の会」のパンフレットをみせて頂きながら「（国連ハビタット）総本部」「本部」「支部」の表記にそれぞれの位置づけが分からなくなりました。表記に統一性が必要では？　大変に興味深い内容のシンポジウムでした。ありがとうございました。
・ダンボールコンポストについてもう少し詳しく聞きたかった。
・ゴミをテーマにネパールを知ることが出来てよかった。

■ハビタット協力委員会・懇談会

去る平成 22 年７月７日（水）に、福岡県知事公舎において、国連ハビタット福岡本部協力委員会総会が行われ、終了後に懇談会が開催されました。
　この会は、毎年この時期に開催されているもので、懇談会には日頃から国連ハビタットを支援している福岡の企業（協力委員会）や国連ハビタット福岡本部の職員、その他関係者約 60 名が参加しました。市民の会からは、牟田、末次、佐竹、諸藤、山前、山口、橋詰の７名が参加しました。天候にも恵まれた今年は、昨年とは違い庭園での開催となりました。

麻生県知事と市民の会の皆さん

　最初に麻生福岡県知事の挨拶、続いて日本ハビタット協会の副会長で国連ハビタット親善大使を務める、マリ・クリスティーヌさんの乾杯の音頭で懇談会は始まりました。広々とした庭園での開催ということもあり、ゆったりとした雰囲気の中、会場のあちらこちらには歓談の輪ができ、時間を忘れて楽しいひと時を過ごすことができました。県知事からは国連ハビタット福岡本部に対する熱い思いや、市民の会に対する期待を直接お聞きすることもでき、今後の市民の会の活動の重要さを再確認した次第でした。
　そして今後もこのような多くの方々の思いや、協力委員会による様々な支援が続くことを願いつつ、懇親会はアットホームな雰囲気の中、無事終了しました。　　（橋詰）

■ネルムさんを囲んで勉強会

　５月２０日、福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」にて、国連ハビタット福岡本部のプログラムマネジメントオフィサーとしてご勤務されているネラム・デ・シルバさん（スリランカ出身）にお話をお聞きし、勉強会を行いました。お仕事の内容は主にアジア太平洋地域のファイナンスや経理及び人事などをご担当されています。福

岡事務所に来られる前は独立後の東ティモールと、スマトラ沖地震後のインドネシア、パンダアチェに赴任されていたそうです。そのため福岡はとても平和で人も親切で住みやすい街ですねとおっしゃっていました。スマトラ沖地震後のパンダアチェでは津波によってすべてが破壊され、電気、水道もなかったそうです。１００以上のNPO団体などが家を建てる支援を行っていましたが、たびたび住民との行き違いが生じていたようだとのことでした。例えば、ADB（アジア開発銀行）は台所とトイレが家の中にあることを推奨していましたが、下水道の設備が十分でなかったり、台所では薪を使用することが多いため、家の外にあることを希望する住民が多かったとのことでした。

当日、ネルムさんのお誕生日だということが分かり、勉強会の後は急遽ネルムさんのご主人もご一緒にお誕生パーティを行いました。

（諸藤）

■ハビタット支援コンサート

今年で２３回目を数えるニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル日本ツアー２０１０公演が、7月１６日にアクロス福岡のシンフォニーホールで行われました。

この公演は、アジア太平洋子ども会議・イン福岡と国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとして毎年パナソニックが主催して行われています。

今年の公演も、音楽の楽しみや魅力を伝える素晴しい音色がホール中に響き渡りました。印象に残った演奏としては、モーツアルトのヴァイオリン協奏曲　第５番　イ長調［トルコ風］で、数々のヴァイオリン国際コンクールで優勝したブルガリア人のゲオルギー・ヴァルトチェフが、非常に品格高い堂々とした内容の深い作品を、見事な技巧で感情を込めて演奏してくれました。その他では、ビゼー作曲の「歌劇“カルメン”組曲より」をオーケストラだけで演奏してくれましたが、最もポピュラーなオペラであり、大変楽しく聴くことができました。

アンコール曲では、エルダー作曲の「威風堂々」を演奏してくれました。これも良く知られた曲で楽しく感動的でした。

（佐竹）

■職員紹介

今回の職員インタビューは、今年 4 月に入所された堀奈穂美さんです。

○出身はどこですか？
　福岡市の香椎です。古賀市にも住んでいたことはありますが、学生時代の 13 年間はカリフォルニア、ニューヨークに住んでいました。

○大学では何を勉強しましたか？
　心理学、芸術療法です。精神的な病を絵や芸術を通じて治していく方法です。老人の精神分析等も行なっていました。前職の環境意識啓蒙活動で心理学の手法を取り入れ役に立ちました。

○なぜ国連ハビタットに就職したのですか？
　国連機関が福岡にある、ということでとても興味を持っていました。今までやってきた仕事と似ている部分があると思いました。インドネシアに滞在していた際スマトラ沖地震に遭遇し、住居・建物が倒壊していく姿にショックを受け住環境問題に関する関心・意識が高まったことも動機の１つです。

○前職ではどんな仕事をしていましたか？
　環境関連の独立法人におりました。環境関連のプロジェクトでインドネシア、タイに行き、現地･NGO の人達とゴミを減らすワークショップをしたりしていました。

○いつ福岡本部に来られたのですか？
　今年（2010 年）の４月末からです。

○福岡本部での担当国はどこですか？
　パキスタンとミャンマーです。

○担当国ではどんな仕事をしていますか？
　実際にフィールドで働いている人やプロフェッショナルの人達のアシスタントです。住居や学校建設のプロジェクトが多いです。

○仕事・職場の印象はどうですか？
　それぞれのセクションの人達がプロ意識でがんばっていらっしゃって素晴らしいと思う。

○日本への期待は何ですか？
　不景気ではあるが眼を内々ではなく外に向けてほしい。

○将来の夢は何ですか？
　国連機関で経験を積んで、将来フィールドで働いてみたい。

○モットーは何ですか？
　「人との出会いを大切にする」です。

○趣味は何ですか？
　ラブコメデイ等の映画鑑賞、肖像画や絵を描くこと、最近は写真にハマっていますね。

○福岡の印象はどうですか？
　いろんな国に行きましたが、福岡は住みやすくゴハンがおいしいと思います。外国の友人にはいつも福岡に来るように言っています！

堀さん、忙しい時間の合間、インタビューに応じていただきありがとうございました。

（山前）

■ニュースレター30号発行に際し

橋詰順一郎
運営委員になって、１年７ヶ月余り。市民の会の歴史に比べるとまだまだですが、せっかくの九州唯一の国連機関の存在を多くの人に知ってもらえるよう、PR 活動に、そしてタイムリーなホームページの更新にとがんばります。みなさん、毎月第３木曜日の定例会（原則）に参加して一緒に活動していきましょう。

山前隆
アジア太平洋地域における居住や都市開発を垣間みることができ自身の視野が広がり勉強になっていると思っています。
職員との交流も楽しいものです。国連機関に興味のある方、開発途上国の住居・移住問題に興味のある方、そして文章を書くのが好きな方、参加お待ちしています。

諸藤恵子
ハビタット福岡市民の会の事務局長をさせていただいています諸藤と申します。NL の発行が早くも３０号を向かえたとのことで大変感慨深いです。「魚を与えるより魚の獲り方を教えよう」という言葉にあるように、住民の方々と共に解決法を考え、人間居住や都市問題に取り組んでいる国連ハビタットの活動をこれからも応援していきたいと思います。皆さんも一緒に活動しませんか？

山口明巳
　アジア諸国を広域に渡り担当されるが故、暇なく、またボランティア精神もさること乍ら、その住環境整備の向上に日々取り組まれるハビタット職員の方々をこれまで頼もしく拝見してきました。この記念すべき号にちなみ、皆様も同胞の人々の平和へのお手伝いをちょっぴり如何でしょうか？　きっと、小さな窓から大きな世界が見えてくるのは受け合いですよ。

佐竹芳郎
　九州唯一の国連機関である国連ハビタット福岡本部の存在とその活躍をできるだけＰＲしたいと思います。取材項目を選び記事を書くことは取材内容について考えを深め、表現力を養う上でとても勉強になります。又、このニュースレターは福岡県立図書館で永久保存されています。励みになります。皆様もぜひ参加しませんか。

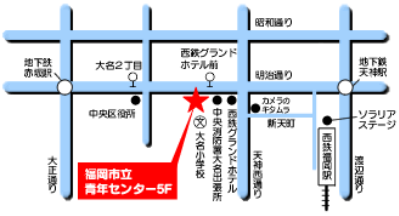
牟田慎一郎
　１９９９年１月２８日、ハビタット福岡市民の会の第１回ミーティングから関わって、現在は代表を務めさせていただいてますが、今年から日本ハビタット協会の理事および福岡支部長を拝命して、ますますハビタットの関わりを深めています。一緒に楽しい有意義な活動をしましょう！

編集後記

1999 年６月 26 日に市民の会通信第１号が発行されてから、途中２年ほど休刊したものの、11 年後の今回が第３０号の記念すべきニュースレターとなりました。当初はモノクロでしたが、第 13 号でカラー化し、2005 年の３月発行の第 14 号から、現在のスタイルになりました。運営委員が中心となって取材記事を書いていますが、今後は、一般の会員の皆さんがたからの寄稿も掲載していきたいと思いますので、御意見などどしどしお寄せいただきたいと思います。　（牟田）

■お知らせ

９月 16 日（木）19:00～　定例会
　ハートフルフェスタと地球市民どんたくの準備
１０月４日（月）世界ハビタットデー行事
１０月１０日（日）ハートフルフェスタ
　福岡市役所ふれあい広場にて開催され、市民の会もブース出展します。
　ハートフルフェスタは世界人権宣言５０年を記念して１２年前に始まったフェスティバルです。今年始めて福岡市民の会のブースを出店することになりました。DAIGO さんがゲストに登場します。
１１月６日（土）～７日（日）地球市民どんたく
　１１時～１７時までアクロス福岡２階交流ギャラリーにて開催されます。みなさま、どうぞお気軽にお越しください。
11 月 18 日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター発行打ち合わせ
12 月２日（木）19：00～　定例会
　ニュースレター第 31 号発行
１２月９日（木）19：00～
　国連ハビタット福岡本部、日本ハビタット協会との交流会（クリスマスパーティ）
☆スケジュールは、変更になることがありますのでメールやウェブサイトでご確認ください。
☆定例会の場所は、原則として、福岡市立青年センター５Ｆ
福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」



■事務局からのお願い

●会費納入ご協力のお願い
　ニュースレターの発行は、皆さん方の会費で成り立っています。皆様方のご協力をよろしくお願いします。
　　年会費　一般 2,000 円　学生 1,000 円
　会費・支援金の納入は、下記口座へお願いします。
　　郵便振替口座　０１７３０－０－７８４３４
　　加入者名義　　ハビタット福岡市民の会

●ボランティア募集
　ハビタット福岡市民の会の運営や活動のサポートに携わっていただく、ボランティア（運営委員や会員）を募集しております。（定例会などへの飛び入り参加歓迎）
　国連ハビタットの活動に興味をお持ちの方、大学生などとくに若い方々の積極的な参加をお待ちしております。
　お問い合わせは、下記連絡先へ。

事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：
〒810-0041　福岡市中央区大名２－６－４６
福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん連絡ボックス２号
お問い合わせは：
TEL　090-6770-2481（代表　牟田）
FAX　0942-41-2080
E-mail: muta@ktarn.or.jp
URL　http://cnhf.npgo.jp